



事業報告書

Corporate Guide

2005年6月期

2004年7月1日～2005年6月30日

The
United
Companies
of
ACMOS

アクモス株式会社

JASDAQ

証券コード：6888

アクモスの経営理念は、「融合・連携・共鳴」であり、
ハイレベルなノウハウを共有した専門サービス企業集団として
新たな可能性に弛まぬ挑戦を続け企業価値の向上を目指します。

□ アクモスグループ

情報技術事業

システムインテグレータ事業
モバイルインターネットコンテンツ開発事業
情報技術製品の試験評価などのテスト事業

人材事業

人材紹介事業
人材採用コンサルティング及び採用のアウトソーシング受託事業

経営コンサルティング事業

CONTENTS

株主のみなさまへ	P.01
代表取締役 飯島秀幸より株主の皆様へご挨拶申し上げます。	
アクモスグループの成長戦略	P.02
当社グループの成長戦略についてM&A戦略を中心に説明いたします。	
グループ業績ハイライト	P.04
2005(平成17)年6月期の連結業績の概況を事業分野別にご説明いたします。	
財務諸表	P.06
連結財務諸表の概要を記載しております。	
特集 アンケート結果の報告	P.08
2005(平成17)年5月31日現在の株主様を対象に実施したアンケートの結果をご報告いたします。	
ニュースフラッシュ	P.11
グループ企業の最新情報をお知らせいたします。	
会社概要 & 株主メモ	P.13

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日ごろから格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期の業績は、連結売上高が2,064百万円(前期比42.7%増)、経常利益は80百万円(前期比50.6%増)となりました。中でも、人材紹介のアクシスコンサルティング株式会社は伸長著しく、売上の規模は小さいながらも当グループの収益を支える柱となる会社に成長してきております。

また、株主の皆様(平成16年6月30日現在の株主様)に割り当てを行った「アクモスαプラン」の新株予約権の行使によって336百万円の資金を調達することができました。多くの皆様にご行使いただきましたことをあらためて御礼申し上げます。

従来からの課題であった収益力の向上と経営基盤の強化は、株式会社エクスカルの子会社化と茨城ソフトウェア開発株式会社との株式交換により解決する見通しがつきました。

また、子会社の株式会社アルティが、9月1日に株式会社講談社(本社 東京都文京区)と共同で「金田一少年の事件簿 オペラ座館殺人事件*」をリリースし、携帯電話用ミステリーゲームでの新境地を開拓しつつあります。

第15期(2006(平成18)年6月期)は“新たな飛躍元年”と位置づけ、M&Aによる成長戦略を推進し、併せて連邦経営の実を挙げるためコーポレートガバナンスの充実を図っていく所存であります。

株主の皆様には、変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年9月



代表取締役 飯島 秀幸

*©天樹征丸・金成陽三郎・さとうふみや/講談社 ©講談社/アルティ

2008(平成20)年のアクモスグループ

Our Goal

アクモスは、3年後の2008(平成20)年6月期までに

連結売上高
100億円

連結経常利益
10億円

子会社総数
10社

を達成することを目標とします。

目標達成のためのM&A戦略

1. グループ参加企業の条件とは?

① 三つの基本条件

● 専門サービス事業を行っている企業

専門サービスを事業としており、その事業の専門領域で優位性があることを重視

● 経常利益基準で原則黒字であること

原則⇒選定時点の直近事業年度の経常利益基準で黒字
(将来の成長により早期の黒字化が期待できる場合は、事業計画を吟味し決定)

● コンプライアンスを重視した経営の透明性

企業の社会的責任を考慮し、コンプライアンスによる経営の透明性の確保を重視

② ビジネスタイプを選定条件に追加

対象企業のビジネスタイプを、収益力及び成長性の観点から三つのタイプに分けて選定



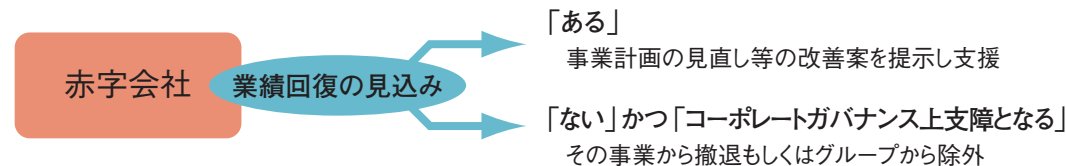
タイプ別の成長シナリオを明確にして戦略的に育成

- 安定収益・安定成長タイプ
- 高収益・高成長タイプ
- リスク型ベンチャービジネスタイプ



2. 投資対象企業及び事業の選別

投資の効率化を図るため、グループの赤字企業及び赤字事業については定期的に見直しを行います。



*2003(平成15)年にはこの方針に基づき、創業事業の半導体事業から撤退しております。

成長支援計画のポイント

3年後の目標達成のための二つの重点支援目標

● 人材事業を情報技術事業と並ぶグループ事業の柱に

人材事業の柱にアクシスコンサルティング株式会社を据え、同社の中期計画を中心に成長戦略を立案し支援してまいります。

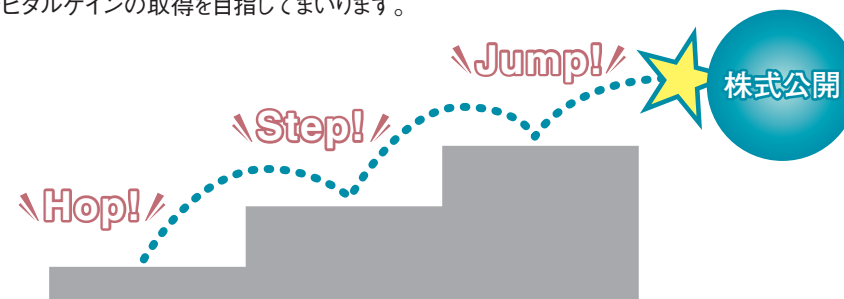
● 地域特化型のビジネスモデルの確立を目指して

地域特化型のビジネスモデルの柱に茨城ソフトウェア開発株式会社を位置づけ、同社の茨城県内での合従連衡を支援し、独立系ソフトウェア開発企業として県内1番を目指します。

投資型事業への挑戦

挑戦 リスク型ベンチャービジネスタイプの企業買収により、早期株式公開

将来の飛躍的な成長が期待できる専門性を持ったベンチャー企業に投資を行い、事業支援・育成を通じ、5年以内のキャピタルゲインの取得を目指してまいります。



□ 連結決算

(単位:百万円単位未満切捨 1株当たり情報を除く)

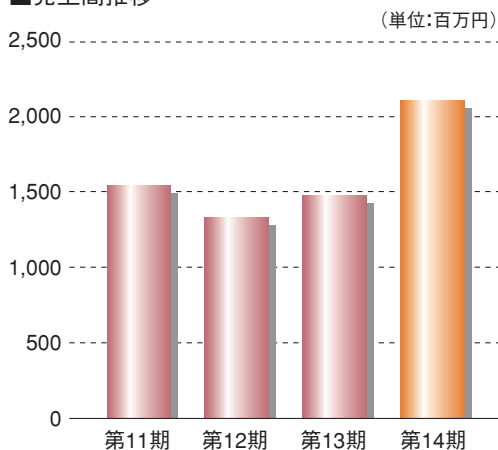
	第11期	第12期	第13期	第14期
売上高	1,511	1,306	1,446	2,064
経常利益(△損失)	△87	△193	53	80
当期純利益(△損失)	11	△240	6	36
1株当たり当期純利益(△損失)(円)	900.58	△18,729.92	526.48	493.47

□ 当期決算のポイント

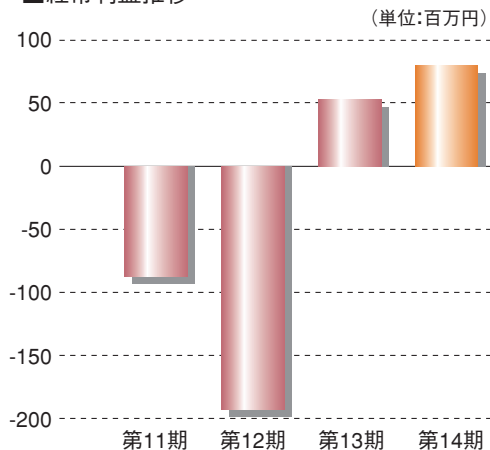
売上高、経常利益、当期純利益のいずれも前年対比で増加、M&Aによるグループ企業の増加による効果と人材事業の躍進がグループ業績に貢献

1. 連結売上高は年間20億円を達成(前期比42.7%増)
2. 連結経常利益で、8千万円を達成(前期比50.6%増)
3. 連結当期純利益 前期比440.1%増の3.6千万円に

■ 売上高推移



■ 経常利益推移

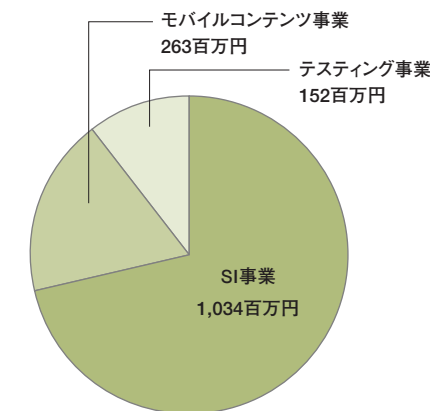


□ 事業の種類別営業の概況

情報技術事業

売上高 1,449百万円 営業損失 43百万円

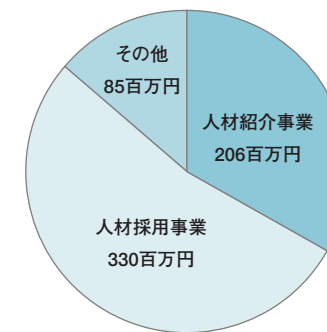
売上高は、新たにIT製品のテストング事業の売上が加わったことにより、1,449百万円(前期比46.4%増)となりましたが、システムインテグレータ(SI)事業で営業損失を計上したため、情報技術事業全体では、営業損失43百万円(前期は営業利益12百万円)となりました。平成17年3月にテストング事業の株式会社エクスカルの株式を取得し連結子会社いたしました。



人材事業

売上高 621百万円 営業利益 92百万円

売上高は、前期比51.2%増の621百万円となりました。人材紹介事業は、顧客基盤の整備が進み主要顧客であるIT企業の人手不足に対応し業務が拡大いたしました。また、人材採用事業においてもハイテク企業を中心に求人数が増加したことから売上が大幅に伸びました。業績の伸びにより、営業利益は92百万円で前期比263.7%増となりました。



□ 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	第13期		第14期	
	自 平成15年7月 1日 至 平成16年6月30日		自 平成16年7月 1日 至 平成17年6月30日	
売上高		1,446,823		2,064,472
売上原価		992,452		1,338,998
売上総利益		454,370		725,474
販売費及び一般管理費		424,462		683,430
営業利益		29,908		42,043
営業外収益		42,160		79,898
営業外費用		18,325		40,965
経常利益		53,743		80,977
特別利益		53,178		10,786
特別損失		56,978		21,500
税金等調整前当期純利益		49,945		70,263
法人税、住民税及び事業税	3,117		39,767	
法人税等調整額	30,345	33,463	△2,404	37,362
少数株主利益又は損失(△)		9,652		△3,984
当期純利益		6,829		36,885

□ 連結剰余金計算書

(単位:千円)

科目	第13期	第14期
	自 平成15年7月 1日 至 平成16年6月30日	自 平成16年7月 1日 至 平成17年6月30日
資本剰余金期首残高	229,331	229,331
資本剰余金増加高	—	206,146
資本剰余金期末残高	229,331	435,477
利益剰余金期首残高	△148,817	△193,067
利益剰余金増加高	6,829	39,703
利益剰余金減少高	51,079	—
利益剰余金期末残高	△193,067	△153,363

□ 要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	第13期	第14期
	自 平成15年7月 1日 至 平成16年6月30日	自 平成16年7月 1日 至 平成17年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	93,825	38,231
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,226	235,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	38,225	411,532
現金及び現金同等物の増加額	83,824	685,303
現金及び現金同等物の期首残高	269,229	353,054
現金及び現金同等物の期末残高	353,054	1,038,357

□ 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	第13期	第14期
	平成16年6月30日現在	平成17年6月30日現在
資産の部		
流動資産	678,350	1,579,718
固定資産	367,088	327,755
有形固定資産	47,201	62,712
無形固定資産	117,467	110,626
投資その他の資産	202,418	154,416
資産合計	1,045,438	1,907,473

(単位:千円)

科目	第13期	第14期
	平成16年6月30日現在	平成17年6月30日現在
負債の部		
流動負債	292,876	538,209
固定負債	171,454	278,190
負債合計	464,331	816,399
少数株主持分		
少数株主持分	92,660	165,828
資本の部		
資本金	454,750	643,200
資本剰余金	229,331	435,477
利益剰余金	△193,067	△153,363
その他有価証券評価差額金	△2,567	△68
資本合計	488,445	925,245
負債、少数株主持分及び資本合計	1,045,438	1,907,473



● 研究開発活動方針

「事業の専門性を高め、新しい製品・サービスの拡充を図り競争力を強化する」

● 当期の主な活動内容

システムインテグレータ事業

株式会社エルテックス

中堅中小企業向けERPの導入の手法研究及び関連製品の開発を中心に行い、中堅中小企業向けERP導入事業を開始しました。

IT製品のテストング事業

株式会社エクスカル

50%出資している米国 National Technical System INC.(NTS)と共同で次世代ワイヤレスシステム技術の基礎研究を行いました。今後もNTSとの共同研究により、認証事業の拡大を図ります。

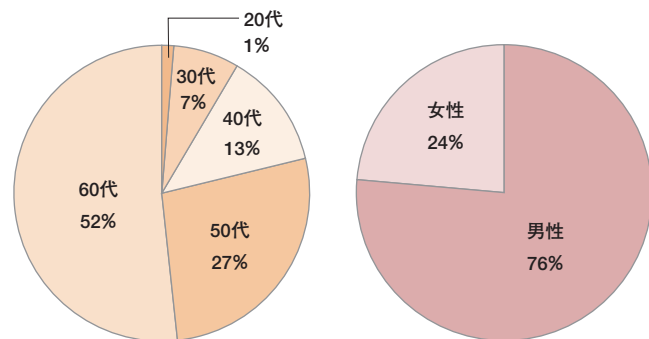
平成17年7月22日開催の臨時総会の決議通知に同封いたしました「株主様アンケート」の結果がまとまりましたので主な結果をご報告いたします。

8月12日の締切日までに676名の皆様からご回答をお寄せ頂き、対象となった5月31日現在の株主様4,489名のうち約15%の皆様からご返信をいただきました。

多くの皆様にご協力を賜りましたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

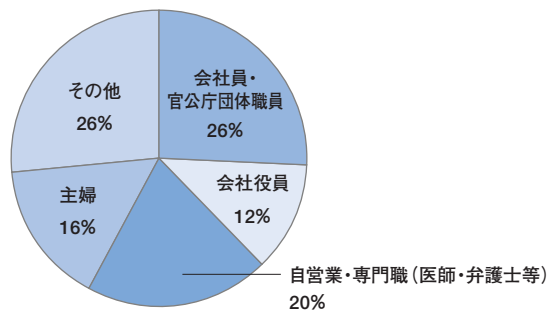
□ 株主様の横顔

年齢分布・男女比



年齢別では、60代以上の方と60代以下の方がほぼ半々の割り合いで、男女比では、男性の方が76%、女性の方が24%（性別未回答を除く）となりました。

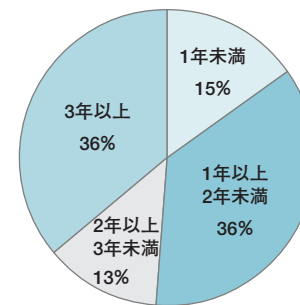
職業分布



職業別の分布では、ご職業欄で「会社員・官公庁団体職員」を選択された方の比率が約26%（職業未回答を除く）を占めました。年齢層別のご職業では、「20代、30代」では、「会社員・官公庁団体職員」の比率が高く、「40代、50代」では「自営業・専門職」の比率が高い傾向が見られました。

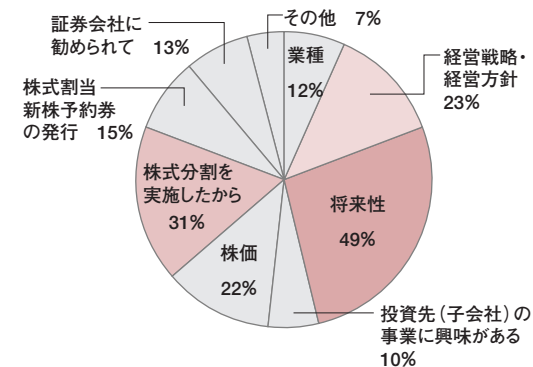
□ 主なアンケートの結果

● 当社の株式の保有年数はどのくらいですか？



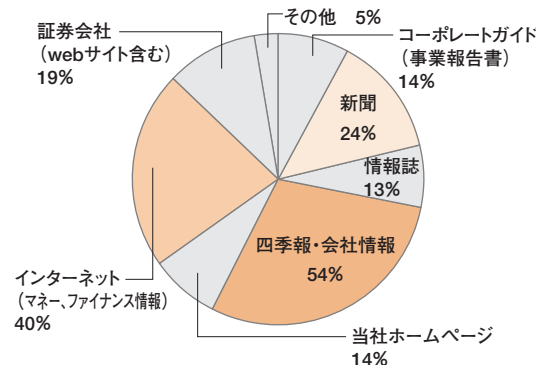
「1年以上2年未満」と「3年以上」保有されている方が同数で合計70%超

● 当社の株式を購入された理由は何ですか？（注）



1位 「将来性」
2位 「株式分割の実施」
3位 「経営戦略・経営方針」

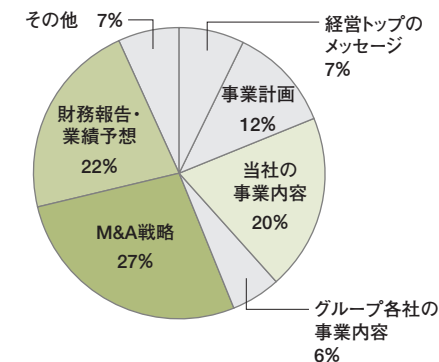
● 当社に関する情報の入手手段は何ですか？（注）



1位 「四季報・会社情報」*
2位 「インターネット」
3位 「新聞」

* ©東洋経済新報社 / ©日本経済新聞社

● 当社に関する情報のうち最も興味のあるものをお選びください。（注）



1位 「M&A戦略」
2位 「財務報告・業績予想」
3位 「当社の事業内容」

（注）の項目については複数のご回答がありましたので、回答毎の割合をそのまま示しております。

□ 当社へのご意見、ご要望

個別のキーワードとして多かったのは、1位「株価」83件、2位「配当」49件、3位「M&A」17件でした。

Q. 株価について

株価に関連して当社が平成17年3月1日付けで従来のマーケットメイク方式からオークション方式に移行した理由について多くのご質問が寄せられました。

当社は、株式分割の実施により流動性の確保が可能となったと判断しオークション方式に移行する決定をいたしました。また、マーケットメイク方式は、株価に値幅制限がないことから、従来からM&Aの買収条件決定に関わる交渉の期間中に株価が不安定になることが問題であったことも理由の一つです。

M&Aによる成長戦略を推進し、当社グループの企業価値の向上を図り、その企業価値が株価に反映されるよう努めてまいります。

Q. 配当について

株式公開会社として株主の皆様に対する利益還元策を最重要政策の一つとして認識しておりますが、当社は純粋持株会社であり、現在の事業活動に必要な収入は、連結対象子会社からの負担金による収入を源泉としております。負担金は、当社の事業活動に通常かかる費用を基準に算定しております。

皆様から数多くご要望いただきました「配当」を実現させるには、子会社など投資先企業の上場等による子会社株式の売却益によって配当原資を確保することが必須の条件となります。

当社は、各子会社の成長支援を優先課題として取り組むとともに、3ページに記載のとおり、「投資型事業への挑戦」を通じ、早期にキャピタルゲインを取得すべく成長戦略の推進に努めてまいります。

Q. M&Aについて

個別のご意見では17件でしたが、アンケートの「最も興味があるもの」では、M&A戦略が35.2%と最も多い結果となりました。

2ページから当社のM&Aによる成長戦略をまとめましたので、ご参照ください。

アンケートにご協力くださった皆様へ

10月下旬の実現に向けて準備中!!

携帯電話着信
メロディプレゼント企画

モバイルコンテンツ事業の株式会社アルティの協力により、アンケートにご協力くださった皆様のうちご住所、お名前を記載してくださった方に、携帯電話の着信メロディをプレゼントします(1ヶ月間おひとり様5曲まで)。該当される方には、10月下旬に郵便で詳細の内容をお知らせします。

□ 茨城ソフトウェア開発株式会社

経営方針発表会

8月23日、茨城県ひたちなか市において、あいにくの雨模様にも関わらず、来賓の皆様のご出席を賜り、茨城ソフトウェア開発株式会社(以下、ISDという。)の第30期経営方針発表会が開催されました。

第30期の経営方針とともに今後3か年の中期計画も発表されました。



宮本社長による基本方針の発表の後、各部門の責任者より、部門ごとの年度方針が発表されました。

9月1日には、当社との株式交換が実施され、グループの情報技術事業の中核企業としての貢献が期待されます。ISDの第30期(平成17年9月1日から平成18年3月31日まで 決算期変更予定のため7ヶ月決算)の業績は、当社の第15期の下半期の業績に寄与します。

第30期経営方針

スローガン

●再び新生ISDのスタート

第30期の経営目標

売上10.2億 経常利益0.7億 経常利益率7.4%

つくばエクスプレスの開業にともない、益々の発展が期待されるつくば地域での業務サービス拡充のため、つくば事業所の拡張移転を行います。また、顧客からの信頼性向上のため、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の認証取得に取り組んでまいります。

中期目標

情報産業、ルネサンス モデル企業に挑戦
～目指せ、創造集団、地場における
ソフトウェアグループの構築～

第32期(平成20年3月期)の経営目標

売上19.0億 経常利益1.5億 経常利益率7.9%

地域における合従連衡により、地域企業や官公庁など顧客との関係を強化し、茨城県内1番を目指します。



本社 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713-7
TEL:(029) 270-5555 FAX:(029) 270-5531

事業所 東京/つくば

設立 1976年(昭和51)10月1日

資本金 2,200万円

代表取締役 社長 宮本 治

業務内容 ITコンサルティング・システム開発

開発実績 (独立行政法人)衛星追跡管制システム、(警察・消防)通信指令システム、(その他)ダム管理・監視システム、携帯電話組込みソフト開発、車載搭載機器向け組込みソフト開発 など

□「中堅・中小企業のためのERP SAP® Business One」好評発売中

出版物

7月、株式会社エルテックスの犬飼邦夫社長、土屋勝光取締役共著、SAPジャパン株式会社監修による「中堅・中小企業のためのERP SAP Business One」が株式会社リックテレコムより出版されました。

エルテックスのERPコンサルティングの経験を活かし、中堅企業、中小企業向けにERPと業務パッケージの違いやその導入効果などを分かりやすく解説しております。また、SAP Business Oneの特徴・機能・導入までを実際の導入事例を元に解説しています。



全国書店で好評発売中!
株式会社エルテックス犬飼邦夫/土屋勝光 共著
SAPジャパン株式会社 監修
定価:2,520円(税込)

□株式会社アルティ 株式会社講談社との共同制作運営によるモバイル版「金田一少年の事件簿」の第一弾「オペラ座館殺人事件」の配信を開始

配信サービス

9月1日、情報技術事業の株式会社アルティは、株式会社講談社との共同制作・運営による携帯電話用ミステリーアドベンチャーゲーム「金田一少年の事件簿」のシリーズ第一弾として「オペラ座館殺人事件」(ボーダフォン©256K端末対応版)の配信サービスを開始いたしました。



アクセス方法

ボーダフォンの対応機種をお持ちの方は
<http://kinda.jp> へGO!

ボーダフォンライブ! ▶メニューリスト>ケイタイゲーム▶アドベンチャー▶金田一少年の事件簿

利用料金

従量課金(1ダウンロード 525円)
※別途、ボーダフォンのデータ通信料金が必要です。

©天樹征丸・金成陽三郎・さとうふみや/講談社
©講談社/アルティ

□会社概要

商号	アクモス株式会社		
設立	平成3年8月23日		
資本金*1	6億4.320万円		
本店	東京都千代田区神田神保町三丁目23番地 神保町錦明ビル		
役員*2	代表取締役社長	飯島 秀幸	
	専務取締役	犬飼 邦夫	
	取締役	金子 登志雄	
	取締役(社外)	柴田 洋一	
	取締役(社外)	島田 直樹	
	監査役(常勤)	荻原 啓一	
	監査役(非常勤)	斎藤 知之	
	監査役(非常勤)	平野 喜久臣	
監査法人	ビーエー東京監査法人		

*1 資本金:平成17年8月31日現在の金額です。

*2 役員:平成17年9月28日現在の役員の状況です。

□株主メモ

決算期	6月30日
定時株主総会	決算期末から三ヶ月以内
公告方法	日本経済新聞
決算公告	http://www.acmos.co.jp/ir/index.html
名義書換代理人*	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所*	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)*	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711
同取次所*	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

*平成17年10月1日より名義書換代理人UFJ信託銀行株式会社の合併に伴い名称及び連絡先が変更となるため、上記は変更後の名称、住所を記載しております。

The United Companies of ACMOS

アクモス株式会社
<http://www.acmos.co.jp/>

情報技術事業

株式会社エルテックス
<http://www.eltex.co.jp/>

株式会社アルティ
<http://www.althi.co.jp/>

株式会社エクスカル
<http://www.xxcal.co.jp/>

茨城ソフトウェア開発株式会社
<http://www.ibaso.co.jp/>

人材事業

データ・ブリッジ株式会社
<http://www.data-bridge.net/>

アクシスコンサルティング株式会社
<http://www.axc.ne.jp/>

経営コンサルティング事業

アクモス・アカウンティング株式会社



アクモス株式会社

本社 東京都千代田区神田神保町三丁目23番地 神保町錦明ビル
分室 東京都千代田区神田神保町三丁目7番地 ニュー九段ビル

TEL.03-3239-2377 FAX.03-5275-2890